①１日45本の列車が発着する与謝野駅　②丹後青松に乗車する利用者
③当時（大正15年）のまま残るホームの待合室　④駅裏に咲くオカメザクラ
⑤与謝野駅待合室内に設置された「丹後山田資料室」
⑥与謝野駅100周年を記念して駅前で奉納された下山田区の太刀振り（４月26日撮影）

運行が移管され、同時に駅名は「野田川駅」へと改称されました。さらに、２０１５（平成27）年には全国で初めて「上下分離方式」が導入され、運行主体がWILLER TRAINS（ウィラートレインズ）株式会社（本社・宮津市）に変更。新たに「京都丹後鉄道」として再出発し、駅名も町名を冠して「与謝野駅」へと改称されました。

与謝野駅の存在は、単なる「交通の結節点」にとどまらず、地域の記憶と文化、さらには鉄道という社会インフラのあり方を問い直す存在でもあると言えます。国鉄からJR、第三セクター、上下分離方式で民間運営へ――。地方鉄道がたどった歴史の縮図が、静かに息づいています。

駅前がにぎわい人が集う場所に

日常生活に欠かせない自動車の普及や人口減少の影響により、与謝野駅の利用者は年々減少。駅周辺でも、かつてのにぎわいは見られなくなり、空き店舗や空き家が目立つようになってきました。しかし、この状況を打開しようとする動きが、少しずつ広がりを見せています。

「与謝野を日本一の桜まちに」をスローガンに、駅裏にオカメザクラを植樹しているのが「百商一気」の皆さんです。２０１８年から桜のオーナーを募り、３年間で３００本を超える苗木を植樹。現在では、春の訪れを告げる名所として、多くの人々に親しまれるスポットとなっています。

２０２３年には、山田地区や地元企業が中心となって「与謝野駅１００周年実行委員会」が発足しました。これまでに駅前で４回のイベントを開催し、あわせて空き店舗や空き家を活用した新たな地域コンテンツの創出にも取り組んでいます。近年駅前では、ビール醸造所を併設した飲食店の開業、宿泊施設「大正亭」の営業再開といった動きも見られ、少しずつではありますが、駅前にかつてのにぎわいが戻りつつあります。

与謝野駅はまちの誇り。多くの人の記憶に刻まれ、次の１００年に向けて歩み始める。

１００周年を迎えた与謝野駅は、次の１００年に向けて新たな一歩を踏み出しました。７月12日に開催した「与謝野駅１００周年記念式典」では、山田小学校の児童のみなさんから「１００年間続く与謝野駅は、与謝野町の誇りです。大好きなこの駅が、これからも１００年続くように、みんなで大切に守っていきます」と、この心温まるメッセージを届けてくれました。与謝野駅は子どもたちの心の中にも、しっかりと根を下ろしています。

与謝野駅は１００年前と変わらず、大切な場所です。通学のために毎日自転車で通った学生たち、進学や就職、夢を追いかけて旅立っていった若者たち。新たな人生に向かう人を見送った家族、大切な人を迎えに来た恋人や家族――。きっと誰の心にも、与謝野駅を舞台にした物語があるのではないでしょうか？　与謝野駅は、そんな数えきれない物語を１００年もの間見守ってきました。これからも、与謝野駅が多くの人々の人生のワンシーンとなり、記憶の１ページとして心に刻まれ、大切に守られていくことを心より願います。

――終わり。

京都丹後鉄道 KYOTO TANGO RAILWAY

丹鉄に乗っておでかけしませんか？

― 丹鉄月１回乗車運動実施中！ ―

京都丹後鉄道は2025年に開業から10年が経ちました。丹鉄に月に１回みんなが乗車することで、未来にも残す取り組みです。
詳しくは、ホームページをご覧ください。

丹鉄ホームページ

● **期間**：毎月１日～７日